



聖書メッセージ

*Bible Message*

# 出 会 い と 別 れ 、 そ し て 再 会

ようやく水もぬるみ、穏やかな春がめぐってきました。春の到来は、昔から歓迎されてきましたが、春は「出会いの時」であり、「別れの時」でもあります。今回は、「出会いと別れ、そして再会」をテーマとします。

「出会いによって人生は変わる」と言われていますが、イエス・キリスト（以降、「主イエス」と略）との出会いは、その人の人生を変えて、「新しい出発」となっていくのです。

主イエスの権威ある教えと力ある御業とに感動して弟子となった彼らは、元々ガラリヤ湖の漁師や取税人でしたが、すべてを捨てて従っていました。人々が次々とやってきては、その教えと御業とに感激している様子を見ていて、弟子となった事を喜んでいました。いつしか、「主イエスが王となれば、自分たちは側近として、高い地位が得られる」との野望も持つようになっていました。

ところが、別れは突然に訪れたのです。イスラエルの三大祭の筆頭である「過越の祭」となり、いつものように主イエスと12人の弟子たちは、「過越の食事」をしたのです。その席で、主イエスの口から思いがけない言葉が飛び出しました。「今夜、わたしはあなたがたの中から取り去られる」と告げられたのです。驚いている彼らにパンとぶどう酒が配られ、「罪のゆるしを得させるために、肉を裂き、血を流すことになる」との受難を告げられました。しかし彼らは、何を言われようとしているのか、分かりませんでした。

やがてゲッセマネの園に行き、そこで主イエスは、12弟子の1人であるユダの裏切りにより捕えられ、一

方的な裁判により十字架刑となり、息絶えてしまわれたのです。突然の別れだけではなく、犯罪人として処刑されたのです。弟子たちは、「自分たちも処刑されるのでは」と震え上がりました。

主イエスが、十字架上で死なれてから3日目の日曜日の夕方のこと。弟子たちは人々に見つからないよう戸を閉め切って一室に集まり、恐怖でおののきながら、息を殺して時が経つのを待っていました。突然、彼らの真ん中に主イエスが立たれたのです。恐れている彼らに対して、「安かれ」と言われ、それでもなお怯えている彼らに、手と脇とを見せられたのです（ヨハネ20章19～20節）。

彼らは、どれほど喜んだことでしょうか。主イエスは、単なる指導者ではなく、「預言されて来たメシヤ（救い主）である」とわかったのです。感激そのものでした。

この主イエスこそが、すべての人の救い主なのです。命を捨ててまでもあなたを愛し、救ってくださる御方なのです。その救いは、過去の事だけではなく、現在に於いても、更に将来にも繋がっていく救いであり、永遠の命が与えられるのです。

人間には、必ず死が訪れます。そして、死の先に神の裁きが有ることが本能的に知らされており、だから死ぬのが怖いのです。しかし、主イエスを信じた人は、二度と死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない、神の御国に入れていただけるのです。そこで、愛する人や大切な人と再会し、喜び合うことができるのです。あなたもこの祝福を得られませんか。お待ちしております！

## 和田牧師 ごあいさつ



牧師  
**和田忠三**

1947年愛媛県に生まれる。住友重機械工業株式会社に33年間勤めた後、牧師となる。

当教会が蛸池に移転して五年半になろうとしています。少しでも地域のみなさまとお近づきにと、今まで教会便り「命の泉」を発行してきました。突然ですが、私は、三月末に広島教会に転任することになりました。短い期間でしたが、みなさまにこの便りをお届けし、お読みいただいたことは、私にとって喜びでした。ありがとうございました。  
四月には後任の牧師がいますので、これまでと同様に、お気軽にお越しください。どうぞ案内申し上げます。みなさまの祝福をお祈りしています。